

結果

霞わけいまかりかへる物ならば秋くるまでは戀やわたらん

〔倭名類聚抄^{十六}餅〕結果 楊氏漢語抄云、結果形如結緒、此間亦有之、今按和名加久乃阿和、

〔箋注倭名類聚抄^四餅〕按古今集長歌云、加久奈和爾亂思天、今俗有蜘蛛手加久奈和之語、江家次第訛作加久繩、假字用格誤、本居春庭據江次第、以源君作和爲誤、非亦甚、

捻頭

〔倭名類聚抄^{十六}餅〕捻頭 楊氏漢語抄云、捻頭無木加太、捻音奴、協反、一云麥子、

〔箋注倭名類聚抄^四餅〕正字通寒具一名環餅、劉賓客佳話、以寒具爲捻頭、雲溪友議載李白新題仙娥驛詩云、商山食店太悠々、陳黯餽饈古餘頭、按葛洪肘後方有捻頭湯、錢乙小兒直訣有捻頭散、蓋

用是物也、李時珍曰、捻頭、捻其頭也、麥子之名未聞、

〔延喜式^七踐祚大嘗祭〕凡供神御雜物者、大膳職所備、○中 勾餅筥五合、○中 捻頭筥五合中略已上六種別納六枚、

〔東大寺正倉院文書^{三十七}淡路國天平十年正稅帳

正月十四日、讀經貳部金光明經四卷、最勝王經十卷、供養雜用料、充稻參拾肆束玖把捌分、○中

麥形參拾貳枚、料米陸升肆合升別五枚、充稻壹束貳把捌分以二把得二升、

索餅

〔天文本倭名類聚抄^二餅〕索餅 釋名云、螭餅、髓餅、金餅、索餅和名无岐奈和、大膳式云、手束索餅多都加、皆隨形而名之、

〔箋注倭名類聚抄^四餅〕齊民要術作髓餅法、以髓脂密合和、麵厚四五分、廣六七寸、便著胡餅爐中、令

熟、勿令反覆、餅肥美可經久、

〔類聚名物考^{飲食二}索餅〕さいべい さくべう さうめい 聰敏

索餅 今の索麵とは異也、形は京にて云白糸、美濃邊にてしんこといふ類なり、江戸にてよりみづといふ、細長くしてねちりたる物也、嘉祥の御菓子の中に、有膳部家の説も異なる事なきと、高橋若狭守いへり、

大膳式のは、米粉、小麥粉、二品をもて作るやうに見ゆ、索餅手束索餅とて二様有、新粉のさくへい